

大項目		内容	内 容
理念	目標	江南市の将来像の共有化	<p>共に選択し、共に担う地域社会の実現（江南市戦略計画策定方針）</p> <p>江南市民の求める市民としての理想、将来像の共有化 江南市の目標の共有化 目標 特徴を作り出していく環境先進市 大きな流れ（共通意識）をもってもらいたい 江南市民が何年先も市を愛する心を持てるように 誇り、郷土愛 民主主義の一つの重要な形態として</p>
		すみやすく安全なまち・生活の向上（市民が幸せに暮らすまち）	<p>市民、NPO、行政などが対等な関係で協力・連携していく 情報を共有し、透明性を確保する</p> <p>公害が少ない、空気がきれい、交通の便がよい 住みやすくする、住みたいまち、住んでみたいまちにする、住みよい地域を作るために、・町内の安全、安全な生活、市民生活を豊かにする、市民の幸福のために、市民の自由のため 住みよい街づくり、市民のよりよい生活、心豊かに生きる、地域が財産であることの確認、市民の生活の質の向上 高齢者、弱者、外国人にも暮らしやすいまち 生活優先の江南のまち、生活環境創造都市</p>
		自由で平和なまち	<p>協働で行う事業や活動について評価を行い、見直しを行いながらまちづくりを進める</p> <p>安全安心なまちづくり、環境にやさしく快適でうるおいに満ちたまちづくり、人にやさしく健康で思いやりと幸せがあふれるまちづくり、文化の薫る個性と豊かな人間性を育むまち</p>
		自然豊かな花のあふれたまち	<p>水と緑を生かし愛と活力のあるまち、自然環境につつまれたあたたかい街</p>
		市民協働でかなう心ゆたかなまちづくり	<p>市民自治の育むまち、協働参加による地域経営の活性化するまち、市民参加と行動力のあるまち、賑わいと活力あるまち、機能的で魅力あふれるまち</p>
次世代の育成		<p>子供達に江南の良さを伝えたい（言い伝えなど）、市の将来を担う子供を育てるために、地域で子育て、子どもたちの活動への市民のかかわり 育成、ボランティア、地域のリーダーの育成</p>	
協働の原則・考え方	協働の必要性	<p>協働によるまちづくり以外に互いに支え合うまちの母体を生み出せない事をはっきりと認識する。</p>	<p>市政の重要な案件が決定するとき(市民参加推進の必要性)、市民活動に取り組む中で、より専門的な知識が必要となったとき、ボランティア活動の指導員が不足したとき、市民一人の力では解決できない場合、行政だけでは固まった仕事になってしまうとき、行政だけでは対応できない課題を市民が助ける、公共サービスの向上を図る場合、行政の文化活動に対する無理解を感じたとき、弟の孫を見舞ったときに安心して暮らせる地域が必要と感じた、まな板のない家庭があることを聞き知ったとき(市民と行政の協働による食育推進)、夢の描けない子供を見るとき</p>
	対等な関係での協力・連携		<p>市民のパワーが十分発揮されるように・市民、行政との対等な関係を築くため、主体性を持って、依存しない、それぞれの団体個人が対等の関係</p> <p>公共サービスは行政が中心になっていたが今後は役割分担をしていく</p> <p>協働とは、行政と市民が対等な気持ちを持つ必要がある(対等の原則)</p> <p>相互理解の推進</p>
	情報の共有と透明性の確保		<p>情報の公開という形態</p>
	評価・見直しの実施		<p>市民にとって無駄なものを行政評価、協働参加者による評価が必要</p>
	その他		<p>市民協働研究会の提案と市政側の意見がアンマッチの時は誰が裁定するの？、育てたグループをしっかり活用する、行政職員が立場上（公平をむねとする）やりにくい事を肩代わりする、市民、団体、行政の施策能力を向上させるため</p>

大項目		内容	内 容	
目的	公共サービスの充実	行政コスト削減	効率的・効果的な行政の実現(費用の削減等)	
		行政改革	江南市の特徴を活かした、江南市民の求める将来像や目標を共有し、それぞれ得意な分野で力を発揮し、その実現に向け協力し合うこと	
		公共サービスの効率化	市民との協働、役割分担による柔軟できめ細かい公共サービスの提供 (例えば)高齢者医療費の抑制を目指した制度改革の流れから、行き場がなくなる高齢者のための支援体制づくり	
		公共サービスの多様化	活動負担の細分化のために 担い手の多様化	
		行政の意識改革	住民の立場に立った市民サービスの確立のために 市民ニーズの多様化、行政と市民で課題に対応することが必要 より現状にあったサービスにしたい時に	
		政策研究	行政の意識改革、市民活動活性化のための研究推進、協働により良いアイデアを集める	
	市民自治の発展	市民の社会参加	相互の信頼感が生まれ、生き甲斐につながるまちづくりを進める。 (例えば)世代間の交流による次世代の育成	市民が社会貢献をしたいとき 住民の力を活かす場 団塊世代が地域に関わる活動を増やす(関わりやすくなるよう)
		自立的な地域社会の活性化(市民自治)		市民の持てる能力を市政に役立てたい 市政に参加したい 住民自治の発展、地域の問題は地域住民が専門家であるから協働の必要あり、地域に関係ある人が一緒に暮らしていくために、人々の交流が増し、地域作りがすすむ、市民活動を活発にしていく、町内単位住民予算制度を展望するため、地域管理したい時に 市民側からの政策提案の推進。思いついたことはどんどん行政に提案する。 地域全体でナレッジマネジメント(知識の創発)推進
		市民の意識改革	自分達のまちの現実・現状(財政面を含む)をしっかりと把握する。	どのような問題があるのか理解し合うために、公共性の概念を実践的に深め、豊かにするために、ローカルアジェンダ21～市民の意識改革～、環境 炭酸ガス削減への市民の努力 ボランティアグループの意識向上、社会問題、地域課題に対する気づき、市民の自立意識の向上、市民の政策などに関する知識向上、
	市民と行政の関係	目的の共有		良いコミュニティ、より良い自治体(コミュニティ)をつくるため、関係市民全体の利益を実現するために 行政に連携の仲介役を一時的に担ってもらい、分野やテーマに適した連携の方法を考える、地域団体とNPOとの相互理解の促進、NPOと地域団体とを繋ぐ自治体ネットワーク、市の職員と市民とのフォーマルな意見交換会、コーディネーターとしての行政の役割の重視
		相互理解・相乗効果(市民と行政の親近感)	行政と市民、個人と個人、地域性、有償無償のボランティア、NPO、企業間の相互理解が不可欠である。	市民・団体・行政職員との相互信頼関係を築くため、互いの尊重、市民の働きへの行政の理解、任せただけ行政は関与しない(口を出さない)、自分たちの意見も聞いてもらえと思ってもらうため、NPO法人(法律に基づいた団体)にむく課題を話し合って担いたい、市民と想いを語り合う場をもつ、常に関係するために 市民からの提案をワークショップで検討、行政パートナー制度(有償ボランティアによる市民サービス提供) 地域の人間関係づくり、互助の心の育成。おい・子育てを助ける。支え合い・共に生きる、相互理解の推進 市民・行政・企業がコミュニケーションをとる。 「苦情を言う・受ける。」の関係から、「アイデアを出し合い、新しいものを創り出す」関係へ